



# 大部 令絵

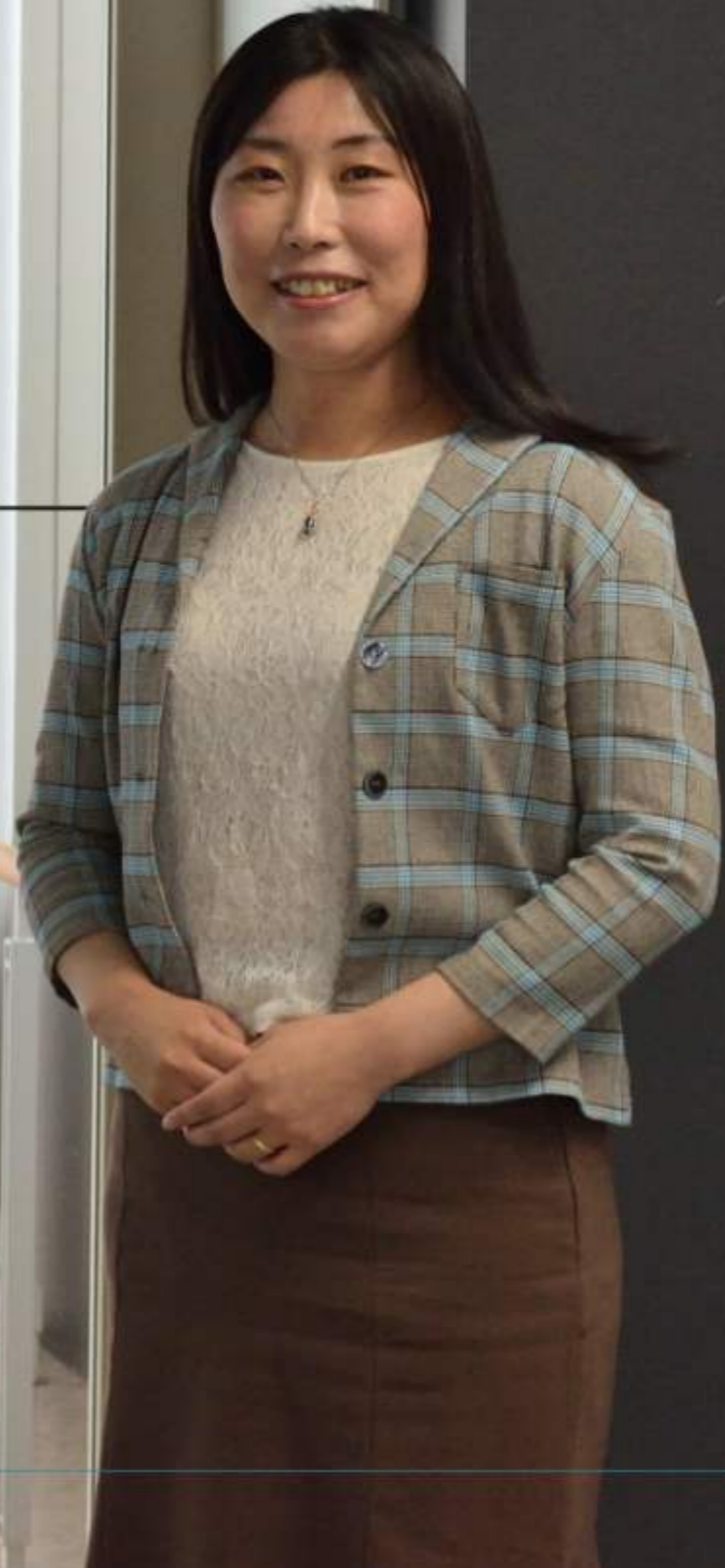
Name OBU

日本社会福祉大学講師、40歳

# DECISION

決断のとき

## 博士号を目指すも病に倒れ難病患者に 雑誌編集長から念願の大学教員へ



### 介護実習棟 Skill Laboratory

#### PROFILE

おぶのりえ / 1982年茨城県生まれ、筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程修了。博士(看護科学)。埼玉県立大学、日本女子大学を経て、2022年より日本社会福祉大学通商教育科で社会福祉士短期養成課程・社会福祉士専攻課程の主任を務める。

驟雨のせい、樹々の緑が柔らかく見えるキャンパスに大部令絵さん(40)はいた。日本社会福祉大学(社大)通信教育科で社会福祉士短期養成・社会福祉士専攻課程の主任を務め、多忙な日々を送る。大学院時代にインドネシアの障害者の研究をするチャンスが巡ってきたとき、研究者になると決意した。その後、大きな病気が見つかり難病と付き合うことになるが、決心が揺らぐことはなかった。

#### Theme#1 研究者として

大の清瀬キャンパスは、東京と埼玉にまたがる丘陵の一角にある。「福祉のリーダーを養成する」国からの使命を託された唯一の大社として、1946年に開校して以来、ソーシャルワーカーや公務員をはじめ、福祉現場の第一線で活躍する人材を輩出してきた。高齢者の介護や社会的に困っている人を支えるサービスを提供することだけが「福祉」ではない。実際はさまざまながりを抱えているのではないだろうか。よりよい社会を目指し、仕組みや制度を整えたり変えたりする取り組みも「福祉」とするならば、今世の中が求めるのは、ソーシャルワークの力だろう。英語表記「Japanese College of Social Worker」と日本でも「ソーシャルワーク」を名乗る大学として、社大はその存在感を増している。

23年7月、大教養に大部さんの言が響く。講義の冒頭、「社会福祉」という言葉の意味を2つの英訳を例に紹介していく。「社会福祉の歴史を話す際に、Welfare」

breiningが出てくる例として、SDGsの目標3の「すべての人に健康と福祉を」について説明しました」。大部さんが担当する「社会福祉概論」のコマだ。同科の社会福祉士専攻課程は、福祉の現場で働く人々がソーシャルワークの基礎を学ぶための1年間のコースで、学生は年齢も経験もさまざま。意欲の高い学生に可能な限り多くの学びを提供したいと講義にも熱がこぼれる。

検査に次ぐ検査の結果分かったのは、下垂体機能低下症というホルモンの病気だった。修士論文で行ったイ

インドネシアの自閉症児教育施設の実態と教育に関する問題点などについての事例研究を、博士課程でもう一段進めていこうと意気込んでいる矢先のことだった。「留学して現地でデータを取りたいと考えていましたが、全部ストップしてしまいました」と途方に暮れた。下垂体機能低下症は下垂体やその近くに腫瘍ができたり炎症が発生したりして、下垂体前葉のホルモンが減少した状態をいう。

「私の場合は副腎皮質刺激ホルモンが足りないというケースです。いろんなホルモンを体の各部でつくるよう指令を出す刺激ホルモンを分泌しているのが下垂体です。脳から刺激ホルモンが出て副腎に発注するみたいな感じで指令がいく仕組みですが、下垂体で発注量がちゃんとつもられない。いろんな人に十数年、こんな説明をしています」

その年の10月、ラトケ臓胞手術をした。26歳になっ